



柏戸の真実

愛唱歌は三橋美智也(中)

すきすきアッコ起源

昭和44(1969)年放
映開始の人気テレビアニメ
「ひみつのアッコちゃん」
のエンディングテーマ「す
きすきソング」が民謡「庄
内おぼこ」のパロディーソ
ングであることは、ここ庄
内ではそれなりに知られて
いる。

アッコちゃんを団地や校
舎のすれで待っていたら、
アッコちゃんは来もせず、
用もないのに納豆売りがや
つて来たり、校長先生がや
つてきて「勉強やれー」と
言ってくるナンセンスソ
ング。日曜朝のテレビ放送

は女の子だけでなく、男子
小学生も楽しみにしていた
ものだ。イラストレーター
で女優の水森亜土の歌声は
舌足らずでスピーディーな
感じが曲調にもひたりだ
った。本家「庄内おぼこ」
は江戸後期・文政年間(1
818〜30)の頃のもの
と言われ、遊佐町には発祥の
地の石碑もある。旅の商人
と年ごろの娘の逢瀬を歌う
もので、来るはずの娘は来
ず、煙草売りが現れるなど、
なかなか出会えない「行き
違い」の状況をゆったりテ
ンポで歌い、来ればいいの
に「と「コバエテ、コバエ
テ」の合いの手が入る。

高校野球応援ソング

ユーモラスな面がある内
容を置賜・川西町出身の作
家・井上ひさしが面白がり、
山元護久と共作して「すき
すきソング」はできた。2
人はNHK「ひよっこりひ
ようたん島」の脚本コンビ
でもあった。旋律を残して
の作曲は小林亜星。特筆す
べきは乗りの良いメロディ
ーがあつて長年、高校野球
の応援ソング「アッコちゃ
ん」として定番になってい
ること。「スキップ・スキッ
スキスキー」の出だしを「イ

ケッ・イケツ、イケイケ」
に替え、バッターボックス
に立つ選手を後押しするも
のになっている。

三橋もおぼこ熱唱

こうして「庄内おぼこ」
はあらぬところで「進化」
していったが、昭和30年代、
柏戸は「庄内おぼこ」をよく
聞いている」と答えている。
故郷のきょうだいたちは
「相撲に入るまで民謡に聞
き入っている姿など一度も

見たことがない」と不思議
がしたが、柏戸と義兄弟の
契りを結んだ三橋美智也は
「古城」「達者でナ」など
とともに全国の民謡を自分
流にアレンジして、レコー
ドに吹き込んでおり「庄内
おぼこ」もその一曲だった。
柏戸が当時の真空管ステ
レオで聞き、故郷の民謡再
発見の境地になったとして
も不思議ではない。いわば
三橋の歌う民謡調の歌が好
きだったということだろう。

和風のものが好み

そしてまた土俵を離れた
リラックスタイムも「和風」
好みだった。映画では邦画
の時代劇を好んだ。

大川橋蔵の「新吾十番勝
負」を見に行つては「チャ
ンバラは面白い。理屈抜き
で楽しい」と言つて記者た
ちと談笑。好きな俳優を戦
前から鞍馬天狗を演じたア
ラカンこと風寛寿郎を挙げ

るあたりは結構詳しい。

当時は芸能誌が力士たち
をクラブビラにかつぎだし、
さまざまな格好させたが、
柏戸が股旅の姿になったの
も自分自身の趣味と合つた
からかもしれない。また女
優で2歳年上の白川由美と
懇意になったのも芸能マス
コミのセッティングだつ
た。

敬称略
（富樫 嘉美）

東映動画が制作

〇：テクマクマヤコンの
おまじないでも知られる「ひ
みつのアッコちゃん」は赤
塚不二夫原作。東映動画が
制作した。同社はNHKの
昨春の朝ドラ「なつぞら」
の主人公なつ（広瀬すず）
が働いた会社のモデル。黎
明期から日本のアニメをけ
ん引してきた。

西部劇も好まれた

〇：力士たちは洋画の西
部劇も好きだった。昭和35

その白川は終戦開戦の8、
9歳の頃、縁故疎開先とし
て川西町に滞在したが、隣
家に2歳年上の井上ひさし
が住んでいた。柏戸と井上
の直接の縁はなかったもの
の同じ故郷の民謡を巡つて、
それぞれ思いをはせていた
のだ。

年大阪・春場所千秋楽前夜、
栃錦相手の横綱全勝対決に
緊張が収まらない若乃花は
気分転換を思案。市内の映
画館にジョン・ウェイン主
演の「アラモ」を見に行つ
た。ところが目が慣れてし
ばらくすると、前方の席に
マゲ姿の力士を発見。なん
と栃錦だった。「栃関も緊
張しているんだな」と終映
直後、気付かれぬうちに先
に出た。相撲は若乃花が勝
った。

毎週火曜日付に掲載

